

## 第1回真の幸せ（ウェルビーイング）戦略ワーキンググループ議事要旨

日時：令和3年11月1日（月）10:00～12:00

場所：富山県庁3階特別室・オンライン

### （1）事務局説明

- ・ 中間とりまとめに示した施策の方針や方向性の実現に向けた課題として、①県民のウェルビーイングの向上、多様性の促進、②女性のウェルビーイングの向上、働き方改革・ワークライフバランスの推進、③人材交流・人材集積の促進の3つを提示。
- ・ 中間とりまとめに関連する現状の施策について説明。

### （2）委員の主な意見

- ・ 富山は待機児童ゼロが富山の自慢だが、保育園に入れなくて仕事に復帰できないという声も聞く。事実そうであるように早く手を打つべき。また、そのためにも、保育士の拡充に向けて保育士の働く環境を富山が先進的に変えていくべきではないか。
- ・ ウェルビーイングという観点で調査をするのであれば、富山は先進的に取組むのであるからこそ、全国の基準になるぐらいの指標を示したほうがよい。
- ・ 女性がなぜ流出するのか原因を突き止めたい。実は富山県の離婚率が日本で一番低い。仮説だが、これは我慢している女性が多いからではないか。我慢する女性が多い反面、我慢できない女性は流出してしまうのではないか。
- ・ 富山の環境を誇れないと、県民のウェルビーイングの向上にはつながらない。富山は自然に恵まれているが、食べ物を廃棄する率が高く、環境に対しての考え方はまだまだ低い。環境先進県になることが大事。それが県に対しての誇りを持つ近道になる。
- ・ 以前暮らしていた県では、男性女性の差があまりなく、富山に来てカルチャーショックを受けた。地域の集会などで男性、女性のどちらかの出席率を4分の1以下にしないとかそういう目安を県として示すことが第一歩になるのではないか。
- ・ 幼少期、多感な時期に田舎で暮らすことは大事。山村留学が人材交流、後々の富山のファンを増やす上で大事ではないか。南砺市はそういう取組みをしているが、県として山村留学をぜひ推していただきたい。
- ・ 男性の子育て支援という意識改革が盛んに言われているが、富山県では特に女性の意識改革が重要。遠慮がちな女性でも、女性リーダー研修等に参加することで大きく変わることがある。チャレンジする文化の醸成がウェルビーイングの向上につながる。
- ・ 女性にチャレンジして、成功した女性のロールモデルを発信することで周りの目線がすごく変わる。一步踏み出すことによって、今まで我慢していた人たちが大きく変わっていくチャンスが出てくる。
- ・ 「ワークライフバランス」の推進について、片方が増えると片方が減るみたいな「バランス」ではなくて、働いている女性の立場からすると、家のこともやりたいし、子供のことだってやりたいし、仕事だってばりばりやりたいし、そうじゃないときもある。全部もう嫌だというときもあったりする。でも、全部が自分の人生の中で起きていることだという意味で、「ワーク・

イン・ライフ」の推進という言い方がよいのではないか。

- ・ 女性はキャリアが中断することが男性より多く、自分のあり方を見失ってしまう時期がある。やりたいことを見つけてどんどんチャレンジする女性もいれば、それが辛いという声が届くこともある。その辺のバランスはすごく難しく、気をつけないと、新たに流出を生み出すきっかけになるかもしれない。様々な人、多様性を踏まえた施策が必要ではないか。
- ・ 町の制度で県外に出た学生が戻ってきたら奨学金の一部が免除になる制度がある。大学を卒業したらすぐに戻ってこいではなく、向こうで色々な経験を積んでから戻ってきても良い。大学を卒業してせめて5年くらい向こうで経験を積んで、縁をつくって、結婚相手もつくって帰ってきてねという制度であればもっとよい。
- ・ 様々な可能性があること、チャレンジしたかったらこういう手段があって、こういう方法があるという道筋、選択肢があるという情報を知ることが大事。
- ・ 産後ヘルパー事業にかなり助けられている声を聴いている。自分のやりたいことを見つけるには、心の余裕も必要なので、この制度は拡充してほしい。
- ・ 介護もそうだが、やはり時間的な余裕と心の余裕はイコールになることも多いと思うので、周りで使える制度を増やしていくとか、そもそもそういう選択肢があるという情報を拡散していくことが必要。
- ・ 情報発信について、県の子育てサイトは見づらいと以前お話したが、他にも、新たにつくるよりも、今あるものを分かりやすく整えるだけで良くなるものもたくさんある。今あるツールをもっとオープンな感じで活用できたらよい。
- ・ 子育て中のサポート制度はせっかくあっても、利用していない人が多い。最初の1回、2回ぐらいは無料で使えるとか、登録するきっかけをつくれたらよい。
- ・ 北欧は自然が豊かで、環境に優しくて、教育が進んでいて、暮らしも良くて、幸せ度が高いイメージがあるが、まさしくウェルビーイング。そういう目指すイメージを示せれば分かりやすい。
- ・ 富山県の女性は本当にやることがいっぱいある。家事がかなり負担になっているので、家事代行とか、食洗機とかそんなレベルでもいいが、家事の時間を減らせたら、自分自身に向き合う時間もできると思うし、そこがキーポイントになる。
- ・ 富山の女性は家族を大切にす。子どもの時間も大切だけど、少しでも自分の時間を増やして、自分の何かを表現すること、自分の生き方を表現することに少しずつシフトしていくことが真の幸せにつながるのではないか。
- ・ ワークেশョンには子どもの問題があって、学校側、教育現場の問題でなかなか進みにくいという現状がある。デュアルスクールとか、子どもを受け入れやすくなる環境を整備することは重要。
- ・ 子どもが障害を持っているとか、最近では大人でも発達障害が後から分かるということも珍しくなくなってきているが、そういう少数派の人たち、声をあげたくてもあげられない人たち、こういう方々のウェルビーイングも大切。